

世界のREIT/リートや債券、株が反発して始まった
2019年1月、NISAで買われた投信はグローバル株!
つみたてNISAでは日本株!!

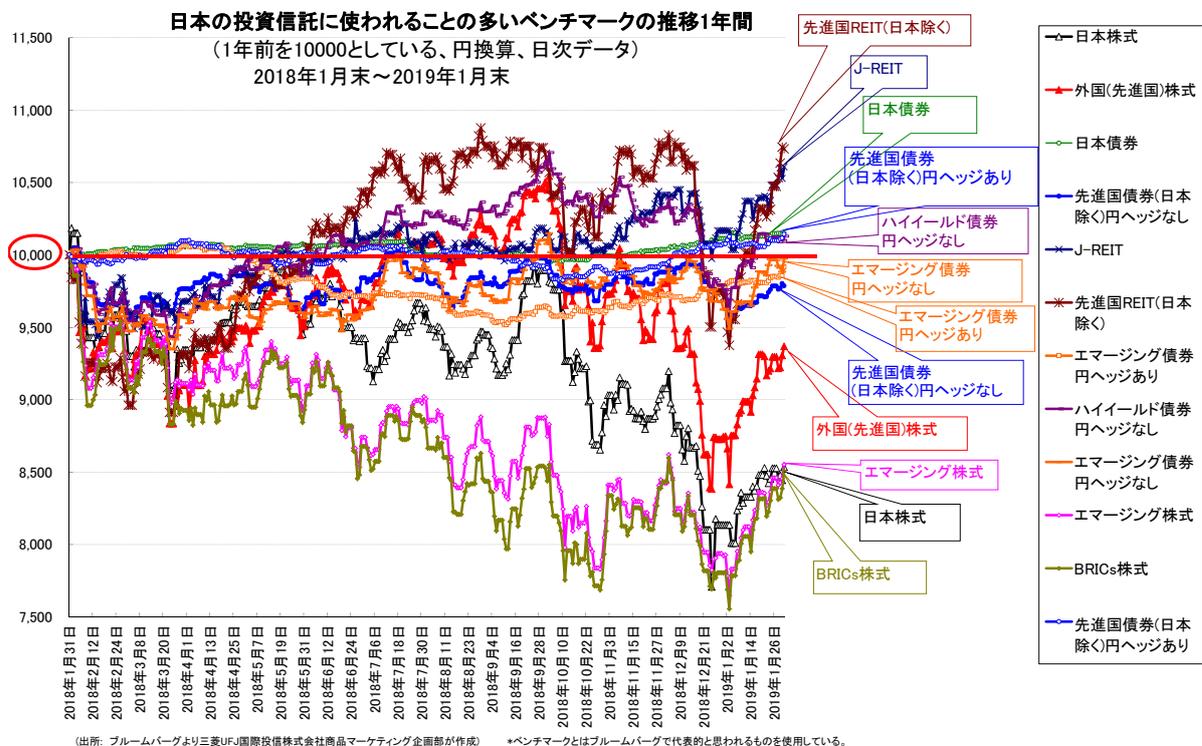
三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

世界の REIT/リートや債券、株が反発して始まった 2019 年 1 月

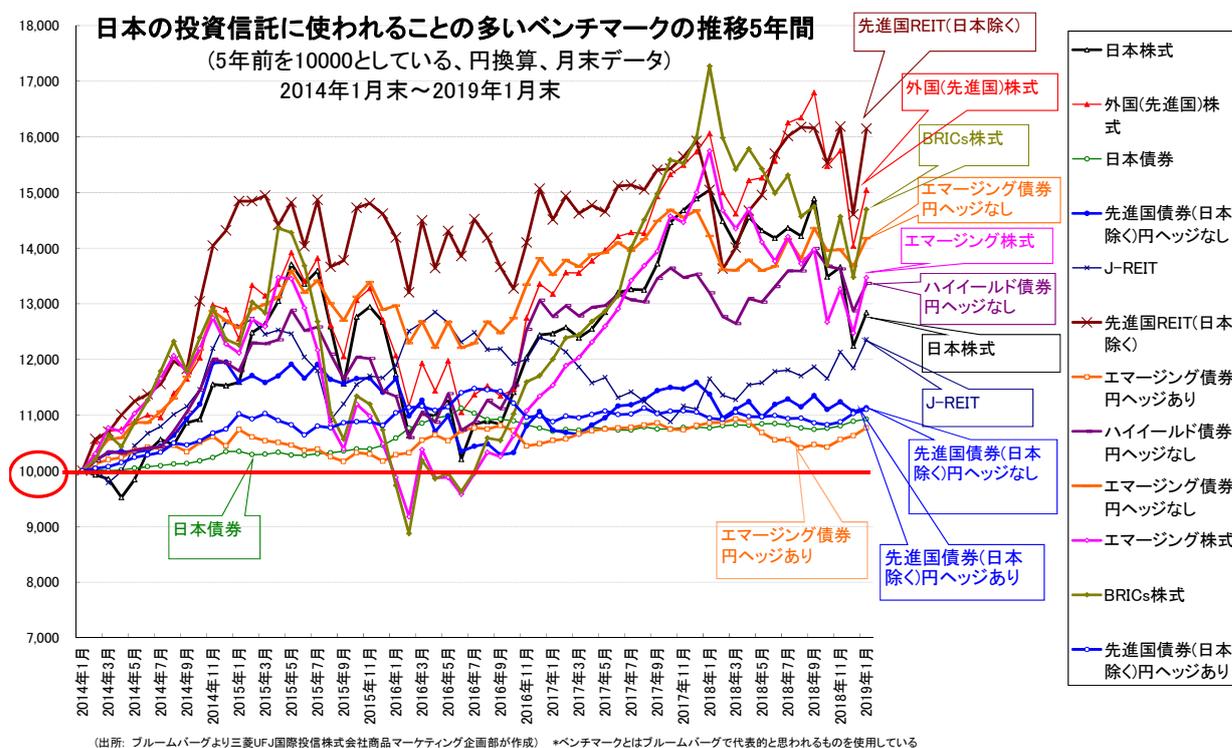
2019 年は年明けから株価が戻り基調だ。2019 年 2 月 1 日に日本の株価指数を代表する TOPIX は 1564.63 と 2018 年 12 月 25 日に付けた 1415.55 から反発傾向にあり、米国の株価指数を代表する S&P500 は 2706.53 と 2018 年 12 月 24 日に付けた 2351.10(2017 年 4 月 21 日以来安値)から反発傾向にある。

その中、最新 2019 年 1 月における投信投資家の投資動向を見る。まず、日本の投信に使われることの多いベンチマークの 2019 年 1 月末までの 1 年間のパフォーマンス推移を見たものが下記グラフである。内外の株式は幾度も急落により、2018 年に 9 割強の公募投信は基準価額が下落したと言われていたが(2018 年 12 月 29 日付日本経済新聞朝刊~URL は後述[参考ホームページ]①参照)、そのパフォーマンスは 2018 年末に急低下した後、回復傾向にある。1 年間のパフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、日本 REIT、日本債券、先進国債券円ヘッジあり、ハイイールド債券円ヘッジなし、となっていて(*1 年前を 10000 としている、円換算、日次データ)。



日本株は 2018 年 7 月末からの半年や同 10 月末からの 3 カ月では、上記ベンチマーク中、最低となっているが、2019 年 1 月の 1 カ月では 5 番目に好かった。先進国株式は、2018 年 7 月末からの半年や同 10 月末からの 3 カ月では、上記ベンチマーク中、下から 2 番目のパフォーマンスだったが、2019 年 1 月の 1 カ月では 4 番目に好く、5 年では 2 番目、3 年では 3 番目に好いパフォーマンスとなっている。

下記グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、BRICs 株式、エマージング債円ヘッジなし、エマージング株式、ハイイールド債円ヘッジなし、となっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。5年で下記グラフのベンチマーク中、最も好いパフォーマンスの先進国 REIT は、1年でも2019年1月の1ヶ月でも最も好かった。

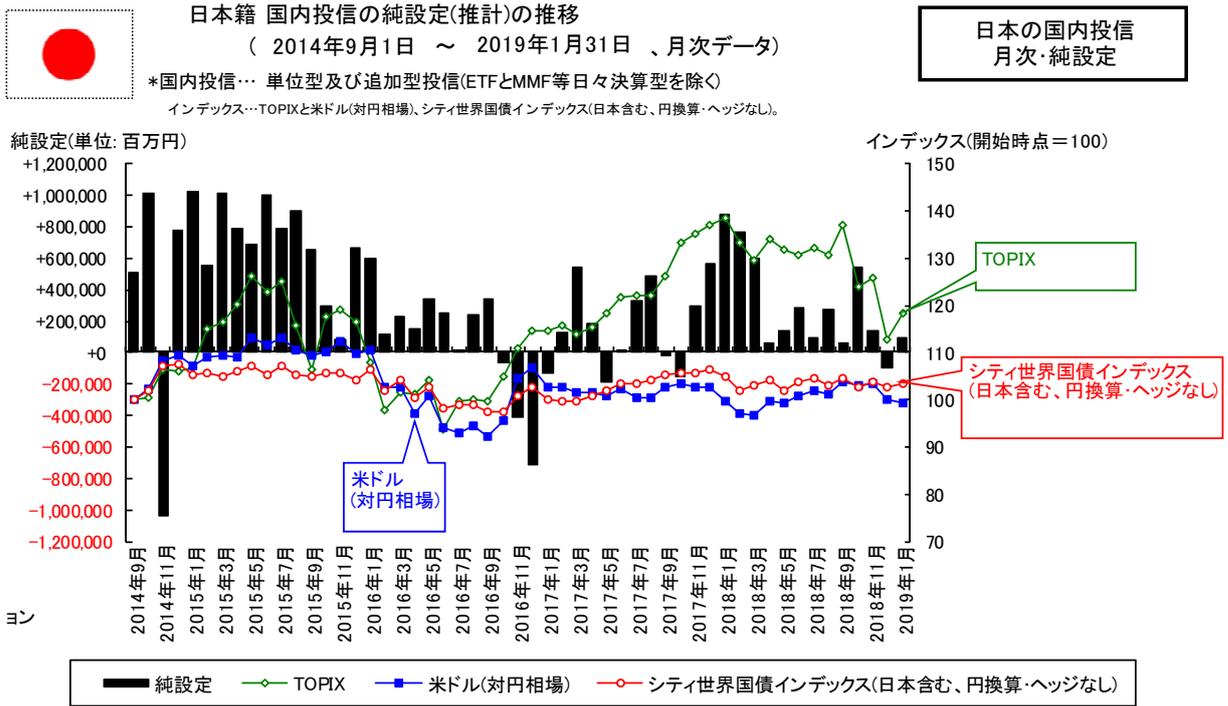


投信フロー最新動向～既存投資家(投信全体)はグローバル株～

内外株価が反発するなか、2019年最初の1カ月間(1月)に、投信でどのような投資が行われてきたのだろうか。「つみたてNISA」を含むNISAにおける投資で、その半数超を占める投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

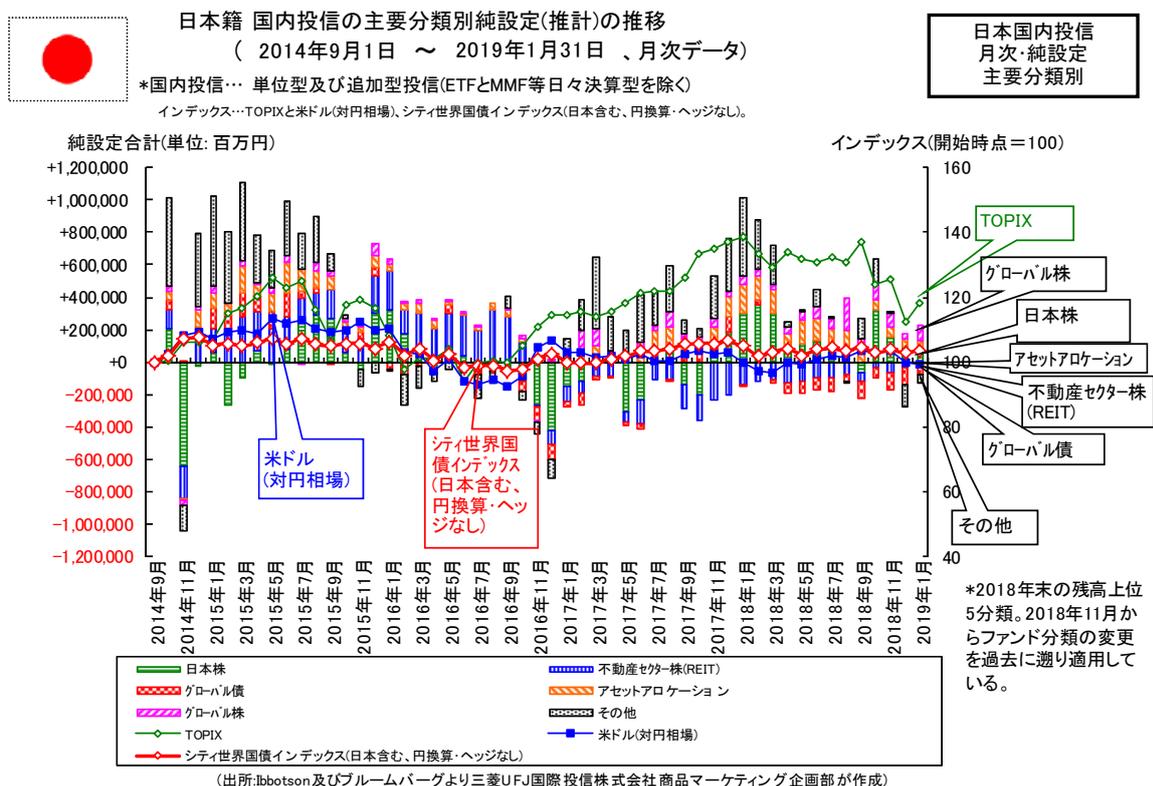
投信の最新フロー(純設定)を見るに際して、NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けることとする。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。

既存投資家(投信全体)の純設定は最新2019年1月に+973億円と2カ月ぶり純流入(←2018年12月-959億円～14カ月ぶり純流出←11月+1428億円←10月の+5403億円)。前年2018年は年初1月に+8715億円と、その年最大の純流入で、2015年8月以来の大きな純流入となったが、2019年1月(+973億円)はかなり低い水準である。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

2カ月ぶりの純流入となった既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象別で見る(下記グラフは投資対象/主要分類*に分けて見たもの)。2019年1月に最も純設定の大きかったのはグローバル大型株(前月2018年12月4位)、次いで日本株(前月12月まで3カ月連続1位)、アセットアロケーション慎重型(前月12月2位)、ヘルスケア株(前月12月3位)、公益セクター株(前月12月8位)。



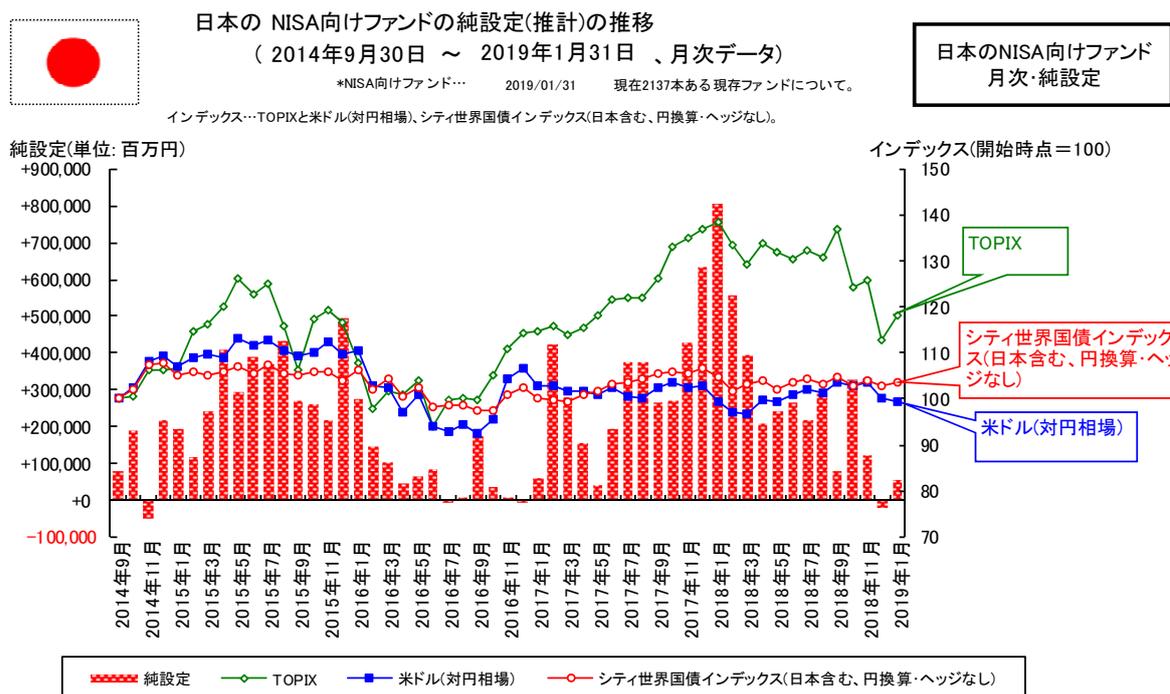
(出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

ヘルスケア株や公益セクター株はグローバル株投資が多いので、グローバル株そして日本株人気も継続といえる。アセットアロケーション型については、そのうち、慎重型や標準型は前月と同程度の純流入となり、機動的な変更はしないが株式の組入比率が高い積極型では2カ月ぶりの純流入に転じる一方、機動的に資産配分を変更する柔軟型は、純流出が継続中だ(2016年7月以降の純流出)。

*主要分類…モーニングスターによる分類で2018年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。ヘルスケア株は「その他」に含む。

投信フロー最新動向～新規投資家(NISA向けファンド)もグローバル株～

次に新規投資家(NISA向けファンド)の純設定を見る。下記グラフの通り、最新2019年1月は+539億円と、2年ぶりの純流出に転じた前月2018年12月(-236億円)から小幅ではあるものの2カ月ぶりに再び純流入となった(←2018年12月-236億円←11月+1500億円←10月+3270億円、*NISA向けファンド…後述※1参照)。1年前の2018年1月は+8065億円というNISA開始(2014年1月)以来最大であったのと比べると、2019年の開始は低調である。



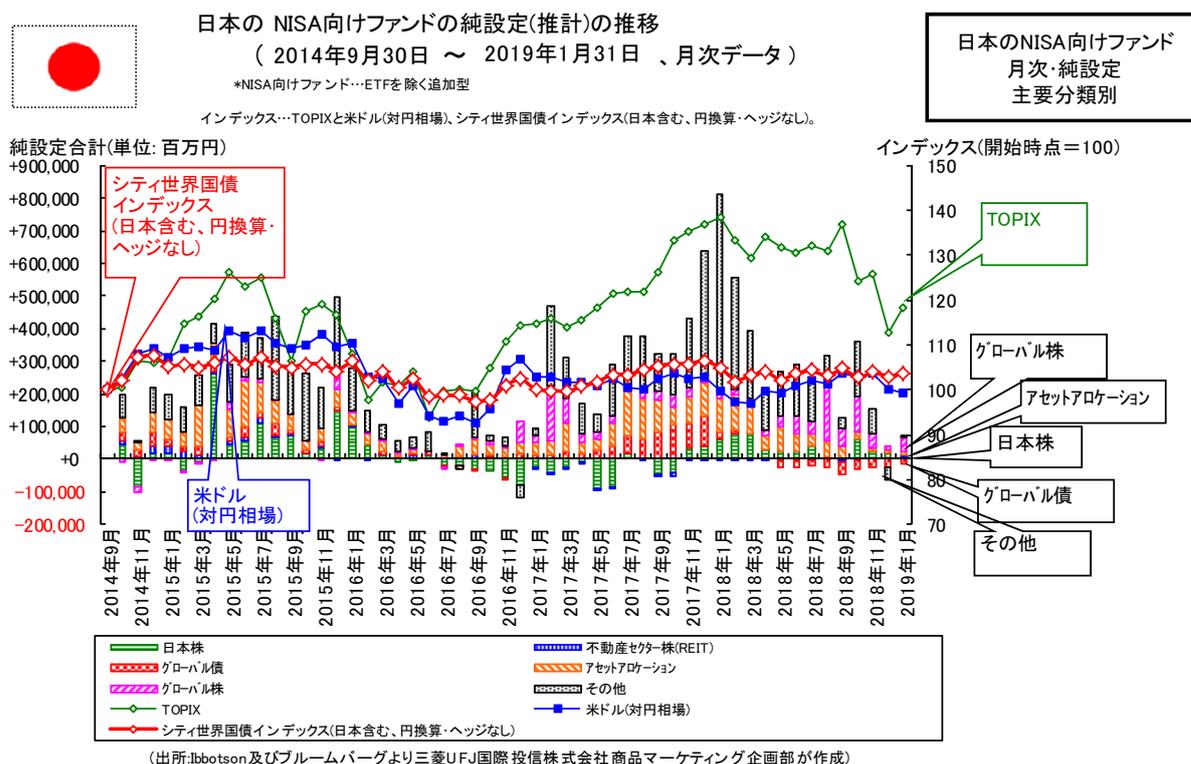
(出所: Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

※1: 「NISA向けファンド」…

投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的にリスクを抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]③参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2019年1月31日時点で2134本となった(2018年末に見直しを行う)。

既存投資家(投信全体)と同様、2カ月ぶりの純流入となった新規投資家(NISA向けファンド)を投資対象(主要分類)別で見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での分類を用いると、最新2019年1月の純設定1位はグローバル大型株(前月12月3位)、2位はヘルスケア株(2018年12月まで3カ月連続1位)、3位はアセット・アロケーション慎重型(前月12月4位)、4位は日本株(前月12月2位)、5位は米国大型ブレンド株(2018年10月から3カ月連続5位)だった(下記グラフ参照~グローバル大型株は、「グローバル株」に、ヘルスケア株及び米国大型ブレンド株は「その他」に、アセットアロケーション慎重型は「アセットアロケーション型」に含む)。



日本株だが、このうち日経平均連動型インデックスファンドは2019年1月に+147億円と4カ月連続の純流入も、純流入額は前月2018年12月(+909億円)から大きく減っている。

投信フロー最新動向~つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)は日本株~

最後に、つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の純設定も見る(*つみたてNISA適格投信なので、つみたてNISA以外で購入された分も含む、ETFを除く~つみたてNISA適格投信については後述[参考ホームページ]④参照)。

純設定は、最新 2019 年 1 月に+478 億円と、前月 12 月(+440 億円)を若干上回り、2017 年 2 月以降 24 カ月連続の純流入。このつみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)を投資対象別で見ると、最新 2019 年 1 月の純設定 1 位は日本株(2018 年 10 月から 4 カ月連続 1 位)、2 位グローバル大型株(2018 年 10 月から 4 カ月連続 2 位)、3 位は米国大型株(前月 2018 年 12 月 4 位)、4 位はアセットアロケーション積極型(前月 12 月 3 位)、5 位はアセットアロケーション慎重型(前月 12 月 6 位)だった。

以上、NISA で何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、つみたて NISA 投資家の順に見てきた。世界の REIT/リートや債券、株が反発して始まった 2019 年 1 月、NISA で買われた投信はグローバル株で、つみたて NISA では日本株だった。

もちろんこれは今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]⑤参照)が多いと思われる NISA 等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2018 年 12 月 29 日付日本経済新聞朝刊「緩和相場が終幕、1 年で市場一変 株・債券・原油…資産軒並み下落」…「<https://r.nikkei.com/article/DGKKZ039563860Y8A221C1MM8000?type=my#AAAUgjQwMA>」、2018 年 12 月 29 日付日本経済新聞朝刊「国内株投信、上昇 1 本のみ 今年、新興市場の不振影響 集中投資型は健闘」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ039537100Y8A221C1EN2000/>」、2018 年 11 月 7 日付日本経済新聞「10 月の投信、5800 億円の資金流入超に」…「<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ03735920005112018000000/>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

②2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」。

③2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018 年 3 月 7 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

④2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

⑤2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018 年 3 月 7 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。